



高校受験のために効率よく点数をアップさせる教科別の勉強法

到達度確認テスト、ご苦労様でした。夏休みの学習の成果を発揮できたでしょうか？

三者面談で、「何からどのように勉強したらいいか分からない。」という訴えがありました。今号では、教科別の勉強の進め方や具体的な方法について説明します。答えや解説を読んでも理解できない問題については、早めに先生や得意の友人に聞くことも大切です。

国語

国語の場合は、漢字や古文の単語を暗記していれば得点につながりやすくなります。テスト形式で問題を解き、間違えた漢字やわからない古文の単語は、重点的に学習することが大切です。入試対策の市販の問題集や塾のテキストなどを参考にした上で、文法は出題頻度が高いものから覚えていくと良いでしょう。長文読解問題は、単語の暗記のように短期間で成績が上がるようなものではありません。試験内容は初見の文章となるため、長文読解の問題集を多数こなし、時間を意識しながら、読解力をつけていく必要があります。また、言葉を多く知っていることで、解ける問題の幅が広がります。意味調べに積極的に取り組み、語彙力をつけましょう。

受験では、効率的により多くの問題を解いていくことが大事です。そのため、まず本文を読むのではなく問題文から読む癖をつけておき、何を聞かれているかを把握したうえで、大事な部分を読み取るようにしましょう。答えを選ぶときや書くときも、自分の感覚に頼るのではなく、理論立てて考えて文章の中から答えの根拠となる文章を見つけると正解を出しやすくなります。文章中に頻繁に出てくる用語や作品の題名は、ヒントとなりテーマとなっていることが多く要チェックです。

また、筆者が何を伝えたいかというポイントを自分なりのパターンで文中に線や印をつけて目立たせましょう。要点を目立たせることで読解力がアップします。

千葉県公立入試では、今年度から「聞き取り」ではなく、文章での「聞く力」の読み取りとなります。どのような問題が出るか分からないので、敬語の使い方や文法の勉強もしておきましょう。

数学

数学の勉強は、まず計算に代表される「基礎問題」を確実に解くことが大切です。次に不得意な分野を乗りきる勉強法が効果的です。数学は計算だけに限らず、図形や文章問題などさまざまなバリエーションの問題が出題されます。もし、中学校の数学がどうしても好きになれないときは、小学校の問題からじっくりと復習する勉強法をしてみましょう。

また数学では、受験する高校のレベルに合わせて問題集を選ぶことが重要です。たとえば、合格点 250 点～350 点の高校であれば、たくさんの基礎問題が載っている問題集が解けるようになるといいでしょう。350 点以上の高校の場合は、応用問題まで解ける問題集を選ぶ必要があります。分からない問題は解説を見て解き方を理解し、解説を熟読しても分からない場合は、先生や数学が得意な友人に教えてもらいましょう。

数学では公式を暗記することが重要だと思っている中学生が多くいます。もちろん公式を覚えておくことは大事ですが、問題を解くときにどの公式を使って解くかがすぐに判断できなければ意味がありません。そのために、できるだけ多くの問題を解いてある程度のパターンを知っておくことが必要です。

高校受験の数学は、基礎問題がクリアできればほとんどの高校に合格できる点数をとることができます。何問かは解くことが極めて困難な問題が出題されていますが、クリアできる受験生はほとんどいないのです。そこに時間をかけすぎて全部の問題を解くことができなかつたり、マイナスのイメージが付いてしまつたりするくらいなら思い切ってその問題を後回しにして、できる問題から解くのも 1 つの方法です。

英語

英語の場合は、まずは英単語と文法の勉強から始めましょう。単語や文法が理解できていないとどんな問題も解けません。すきま時間に単語帳を見たり、どれだけ覚えたかテスト→解きなおしを繰り返したりすると単語を覚えやすくなると思います。英文法は問題集などに出てくる例文ごとと覚えると使い方も含めて理解できるので応用力がつきます。覚えるのと合わせて、問題演習も繰り返し行っていきましょう。

長文読解問題は、国語と同様にまずは問題文から目を通す癖をつけておきましょう。何を聞かれているかを把握したうえで本文を読むことでより効率的に問題が解けます。長文問題は数をこなすことで実力がついてきます。また、前置詞や接続詞の知識が読解のヒントになります。わからなかった表現はすぐに調べて次で使えるように学習していきましょう。

リスニング問題対策もぜひ行いましょう。千葉県のリスニングにおける点数比率は全国でも高く、対策が必須となります。リスニング力を上げるコツは「とにかく英語を聞くこと」です。リスニング教材でも、教科書のQRコードの音声でもかまいませんが、ネイティブが発音しているものが望ましいでしょう。すきま時間などを利用して、普段から耳を英語に慣らしておくことが大切です。

理科

理科は勉強量に比例して成績が上がりやすく、また短期間の勉強でも点数が上がりやすい科目です。自分で暗記用のまとめノートを作ると、理科の知識を整理しながら復習でき、また自分で何度も確認することもできて効果的です。ノートを作る際は、用語だけでなく、関係のある図や表も描いてみると視覚的に覚えやすいです。また、同じ問題集を繰り返し解くことも重要です。学校のワークでも、市販のものでもかまいません。1冊の問題集を繰り返し解き、知識を確かもものにしましょう。問題を解くなかで新しい情報を見つけたら、まとめノートに追加します。そうすることでまとめノートは自分専用の参考書となります。

全体的な傾向として、物理分野と化学分野は計算問題や作図問題が多く、苦手に感じる生徒が多いです。苦手な分野に早く気づき、対策を始めましょう。苦手分野の問題に取り組み、質問をしましょう。先生はもちろん、身近にいる理科が得意な人を頼り、すぐに解決するのも良い方法です。最後まであきらめず、力がつくと信じて取り組んでいきましょう。

入試では、時間内にすべての問題に解答できるのが理想的ですが、うまくいかない場合があります。そのため、過去問を解くときは、基本知識等を用いる問題を先に解き、残った時間を計算問題やすぐにわからなかった問題に使うなど、自分なりの時間配分が必要です。50分の使い次第で、得点が大きく変わります。解ける問題を1問も取りこぼさないように、時間の使い方を考えておきましょう。

社会

社会も理科と同様に、勉強した分だけ成績が上がりやすい教科です。まずは、一問一答式の問題集で単語などを暗記していきましょう。千葉県では、マーク式だけでなく記述式の問題が多く出題されます。そのため、記述で理由等を説明する問題も数多くこなしておく必要があります。通知票で「思考・判断・表現にAが付かない人」の多くは、説明問題そのものに苦手意識があり、遠ざけてしまうケースが多くあります。しかし、問題集を複数見比べても、説明問題で問われている事柄はたいいてい一緒なので、遠ざけずに繰り返し解くことがとても重要で、得点アップが望めます。

地理はグラフ問題が多く出題される傾向にあるため、グラフを読み解く練習をしておくと良いでしょう。世界の国々と比較して生産量が多いか少ないか、都道府県がわかる特徴的データはないか等を見つけられれば、解けたも同然です。また、グラフや表などを読み取った文章が正しいかどうかについて記号で答える問題が良く出題されますが、選択肢の文が長く、資料を複数読みとらねばならないため、時間がかかります。ここで時間をかけすぎてしまうと気持ちの焦りに繋がる場合があります。後回しにして、全部終わってからじっくり取り組むことをお勧めします。過去問を見ると、総じてア～エの選択肢のうち「ウ」や「エ」に正解が多い傾向があるのもおもしろいところです。さらに、雨温図や地形図は必ず出題されますので、この対策は必須です。(入試対策プリント「雨温図編」「地形図編」として配付予定です)

歴史は単語よりも時代の流れのほうが重要ですので、出来事の年代や時系列までしっかり覚えておく必要があります。年号や人物を個別に丸暗記せず、年代のながれやあらすじを頭に入れ、暗記すれば効率よく理解できます。また絵や写真史料も多く出題されますので頻出の史料はまとめて学習すると良いです。(入試対策プリント「史料編」として配付予定です)

公民は時事問題が中心となります。そのため、最低でも過去5年分くらいについて、政治や災害などを中心に国内外で起きた主な出来事について調べておきましょう。問題集や過去問を積極的に解き、間違えた問題を中心に、複数回繰り返し解いていくことで実力がついてきます。普段からニュースや新聞をチェックし、自分の考えを家族に聞いてもらったり、家族の考えを聞き、自分と比較して意見をまとめるたりすることも思考力アップになります。